



鶴ヶ島第一小学校
学校だより

学校教育目標

かしこく なかよく たくましく



ゆずりは

第 4 号

令和 8 年 9 月 8 日

『温かい心と心をつなぐ』ために、『やさしい言葉にして伝える！』

ことば
やさしい言葉

にしてつたえる

長い夏休みが終わり、2学期も子供たちが元気に登校してくれて、輝く笑顔が見られ、とても嬉しく思います。

2学期は、1年の中で一番長い学期です。子供たちが大好きな運動会や、校外学習、音楽発表会、持久走大会等、たくさんの行事が待っています。そこで、子供たちに頑張ってほしいことをお話朝会で2つ話しました。

1つ目は、「自分で決めた『めあて』に向かって、あきらめずに挑戦すること」です。2学期は、勉強も少しずつ難しくなります。行事の練習では、最初は、上手いかわなくて悔しい思いをすることもあるかもしれません。でも、最初から何でも上手にできる人はいません。大切なのは、「よし、やってみよう!」と一歩を踏み出すことです。自分のめあてをしっかりと決めて粘り強く挑戦していき、『なりたい自分をめざしてほしい』と思います。

2つ目は、「友達を大切に、みんなで協力すること」です。学校は、たくさんの友達と一緒に過ごす場所です。「自分がされて嬉しいな」ということを、ぜひ、友達にもしてほしいです。例えば、困っている友達がいたら「どうしたの?」とやさしく声をかけたり、運動会の練習の時には、みんなで力を合わせるための声をかけたり、そんな「思いやり」の気持ちを大切にすれば、クラスや学校がもっともっと楽しく、温かい場所になります。

特に、2学期に意識して取り組んでほしいことは、『温かい心と心をつなぐ』ために、『やさしい言葉にして伝える』ということをお子たちに話しました。

2学期が終わる頃には、子供たち一人一人が「これができるようになったよ!」とか、「ここまで頑張れたよ!」等と、胸を張って言えるような、実り多き2学期にしていきたいと思います。

「温かい学校」「温かい家庭」「温かい地域」のつながりを実現させるために、『やさしい言葉にして伝えて』いき、本校で学んだ子供たちが将来も鶴ヶ島市に住みたいと思える魅力的で温かいふれ合いを大切にしていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

昇降口の掲示を見て、意識しよう!



『秋の全国交通安全運動』引き続き、交通事故防止を徹底します!



9月21日(月)から秋の全国交通安全運動が実施されます。合言葉は、『秋の夕暮れライトと反射材で守る命』です。これから夕暮れが早くなります。安全な道路の歩き方や自転車の乗り方等については、引き続き、子供たちの意識を高めていきたいと思っています。学校では、子供たちに繰り返しの指導を徹底してまいります。ぜひ、ご家庭でも機会を見つけてお話をいただき、ご指導をお願いいたします。なお、ヘルメットの着用につきましては、子供たちの大切な命を守るためにも全員が着用できるように、ご協力をよろしくお願いいたします。



広島市平和記念式典児童派遣事業参加報告会

広島市平和記念式典児童派遣事業参加報告会が、8月22日(土)に西市民センターの集会室で行われ、6年3組の中村 美陽さんが、鶴ヶ島第一小学校と鶴ヶ島市の代表として立派に発表することができました。戦争の悲惨さと平和の尊さについて、広島市を見学して感じたことや思ったことを次のように発表してくれました。



令和8年度広島市平和記念式典児童派遣事業
参加報告会

平和への第一歩

鶴ヶ島第一小学校 6年3組 中村 美陽



参加報告会での発表



お話朝会での発表

「広い焼け野原になった広島」の街」「表現できないにおい」「かだんに積まれた中学生の遺体」「川を見ると遺体が波に漂っていた」これは、被爆体験を語ってくださった河野キヨ美さんの言葉です。

想像してみてください。もしも、明日大切な家族や友達、いつもの街を失ってしまったらどう感じるでしょうか。

昭和20年、1945年、8月6日、午前8時15分
広島に一発の原子爆弾が投下されました。

緑豊かで美しい街、沢山の人で賑やかだった広島。原子爆弾は、14万人もの尊い命をうばいました。広島は、一瞬にして地獄のようになったのです。実際に見た原爆ドームは、写真で見たものとは違っていました。きれいに復興された街の中で、原爆ドームだけが、あの日のまま残されていました。床が抜け、地面が瓦礫で埋め尽くされ骨組みだけになった姿は、「二度と戦争をしてはいけない」と、うったえかけているようでした。

平和記念資料館には、原爆が落とされた当時のものが展示してありました。展示されていたものは、ただの資料ではありません。一つ一つにその人の生きていた物語があります。ぼろぼろになった三輪車。黒い雨を口で受ける女性。黒く焼け焦げたお弁当箱。その一つ一つから悲鳴が聞こえてくるようでした。胸が痛くて、目をそらしたくなりました。しかし、目をそらしてはいけません。あの日、本当に起きた出来事だからです。

平和の尊さ。命の大切さ。本やテレビだけでは、学べなかったことを自分の目で見て感じる事ができました。

わたしにとって平和とは、いつも通りの生活ができることです。家族で食事ができること。毎日学校に通えること。友達と遊んだり勉強したりすること。これが私にとっての平和です。

世界には、そのような毎日が過ごせない人たちがたくさんいます。自分一人だけが幸せなことが平和と言えるのでしょうか。自分だけが良ければいいのではなく、遠い世界で起きていることを、自分のこととして考えることが、平和への第一歩です。

広島で聞いた平和へのちかいの中に、「平和は、誰かに与えられるものではない。」という言葉がありました。その言葉にハッとしました。待っているだけでなく、自分たちで作り上げていかなくてはなりません。私にできることは、小さな事かもしれません。

身近な家族や友達に思いやりを持つこと。争いではなく話し合いを大切にすること。周りの人に広島で学んだことを伝えること。広島で受け取った「平和への願い」を受け止め、小さなことでも平和へつながる行動を続けていきます。

